



3学期がスタートしました！

冬休みが終了し、1月8日(水)から3学期がスタートしました。この3学期は、進学・進級に向けて各生徒が次のステップに進むための大切な時期となります。

子どもの努力と家族の支え、そして学校がそれぞれの役割を理解しながら、未来を切り拓いていきましょう。

※写真は、始業式の様子です

(上段 校長講話、下段 生徒会報告)



校内研修を実施しました。

1月10日(金)の5限目・6限目の教室での授業と放課後にメディアセンターにて、「校内研修会」を開催しました。

大木中学校では、月に1回ほど、各先生の授業の質の向上や子どもたちの学ぶ力を向上させる目的で全教員が集い勉強会をしています。

今回は、中京大学教養研究院教授の泰山 裕(たいざん ゆう)教授をお招きして授業研修会を行いました。

併せて、本校の授業改善が文部科学省の示す「これからの教育」にどれだけ合致しているかを検証するため、鈴鹿市教育委員会教育指導課からも4名の先生をお招きしました。

江戸時代の寺小屋教育から始まり→明治維新の学校制度→戦後の学校改革→そして現代教育と大きく教育方法(学ぶ方法)は変化しています。

本校では、「自ら学び、つながりあう生徒の育成」を研修目標にあげ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させて「主体的・対話的で深い学び」を実現させていきます。

※今回の研修会には、大木中学校区小学校(長太小、箕田小、若松小)の先生方も多く参加され、大木中学校区として9年間での学び研究も行っています。



2年生人権学習

1月16日(木)の2限目～4限目に2年生が体育館にて、「人権学習」を行いました。

今回の人権学習のテーマは、「障がい者理解～福祉体験学習」です。

社会福祉協議会等より講師の先生をお招きして、講話・体験学習などを行いました。

子どもたちは、車いす補助体験や車いす体験、白杖を使っての歩行体験、視覚障がい体験用メガネを装着しての体験等を経験しました。

バリアフリーの意味やユニバーサルデザインあふれる社会の必要性を知り・体験した学習であったと感じます。



☆保護者に向けた 親塾

「朝食メニューと成績」の意外に密接な関係

朝食は成績と密接な関係があります。子どもの成績を上げたいなら、一度朝食についてじっくり考えてみてもよさそうです。文部科学省が行った調査でも、朝食を食べているかいないかで、成績に違いが出ていることが示されています。

また、数々の研究機関で、「朝食を毎朝必ず食べる子どもは、朝食を抜いている子どもに比べて、学力が高い」ということが明らかになっています。

朝食が大切な理由は「脳へのエネルギー補給」にあると言われています。

私たちの体は、摂取したエネルギー(ブドウ糖)を、体に貯めておくことができます。余ったブドウ糖は脂肪として蓄積され、必要となった時に使うことができます。

しかし、脳にはそのような機能がありません。そのため、脳は血液中から「常に」ブドウ糖を取り入れ続ける必要があるのです。特に成長著しい子どもの脳は、大人の2倍ほどのブドウ糖を必要としています。朝食を抜いてしまうことが、大人よりもずっと子どもの脳にとってダメージが大きいのはそのためです。

朝食が子どもの脳にとって必要な理由は、次の2つです。

- ・脳が活動するための十分なブドウ糖を補給する
- ・次の食事まで、ブドウ糖を補給し続ける

「十分なブドウ糖を補給する」という側面を考えると、「朝食抜き」は論外です。ブドウ糖というのは、脳が活動するためのエネルギーです。朝からエネルギー切れでは、午前の授業で頭に入らなくなってしまいます。これは非常にもったいないことです。

まずは難しく考えずに、「朝食抜きを避ける」「菓子パンだけの朝食にしない」という2つを守ることからスタートしてみましょう。すでにこれをクリアしているのであれば、「おかずを必ずつける」「週末は玄米を炊いてみる」など、次の段階へ。

ブドウ糖を2倍も使う子どもの脳の成長はすさまじく、親の生活習慣を整えるといった頑張りが生きているのはこの時期でもあります。子どもの脳の成長をよい方向に変えられるのは、ほんの一時のことなのです。

子どもの脳のコンディションを守れるのは、親しかいません。朝食のメニューを変えることで、子どもの成績が上げられるかもしれない。最新の脳科学はそんなことを私たちに教えてくれているのです。